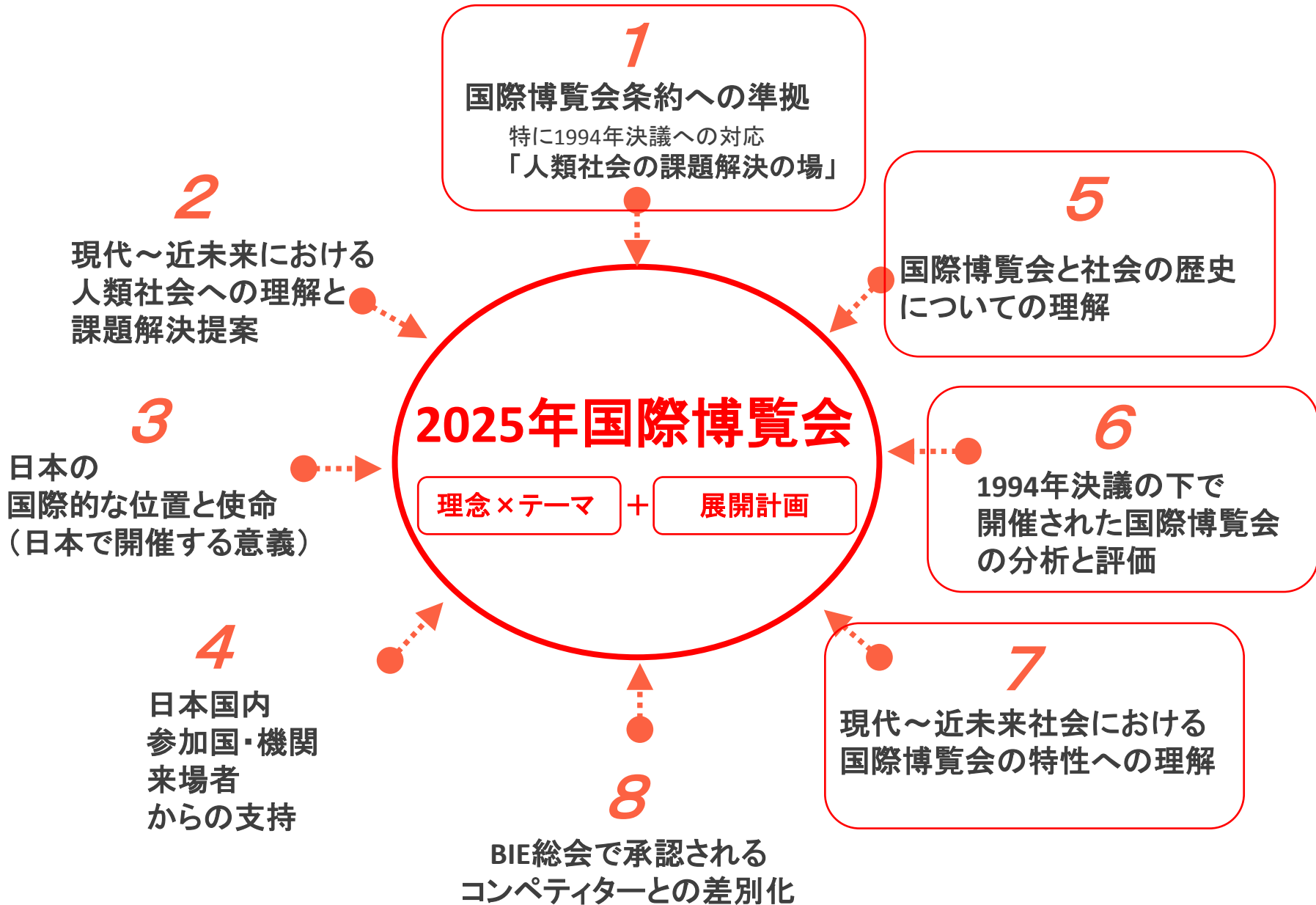




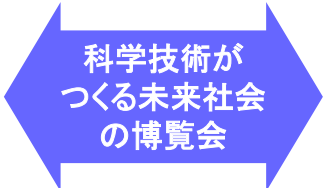
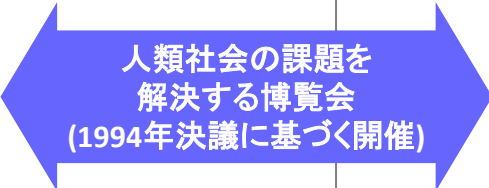


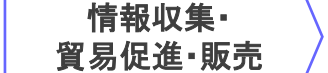

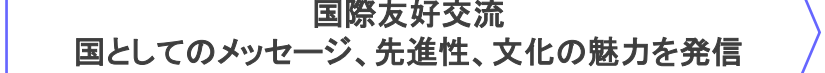

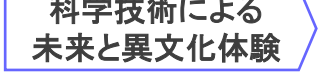
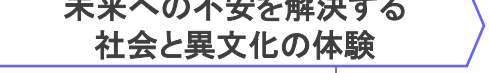
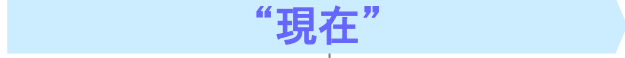
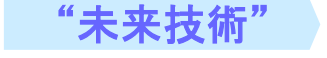

国際博覧会の概要

基本理念・テーマ、展開計画を検討する上での視点

20161216

澤田裕二



時代区分	近代 18世紀後半～	近代 1851年ロンドン万博 ～19世紀末	現代-1 20世紀初頭～1945年	現代-2 1945年～1980年代	現代-3 1990年代～現在	近未来		
社会状況	産業革命 1769年 蒸気機関 市民社会 1776年 アメリカ独立 1789年 フランス革命 資本主義 1776年 国富論	資本主義と工業社会の加速と軋み ・電話、自動車、蓄音機 映画、ラジオ放送、エレベーターなど ・都市の発展と環境悪化 ・100年で欧州人口倍増 国際社会の誕生 ・スクリュー船の普及	世界大戦の時代 ・1914～1918年 第1次世界大戦 ・1939～1945年 第2次世界大戦 * 1928年 国際博覧会条約	戦後復興と国際秩序・平和の維持 ・1945年国際連合 科学技術の進展 ・1981年 スペースシャトル 情報化社会の萌芽 ・1982年 インターネット概念	地球環境問題の顕在化 ・1997年京都議定書 国際関係の変化 ・1991年ソビエト崩壊 ・1993年EU発足 ・2001年 米国同時多発テロ 次世代技術登場 ・2007年iPS細胞 ・2016年 AIに囲碁プロ棋士敗北	?		
国際博覧会								
	▶開催目的・意義(主催国) 							
	▶参加の目的  							
	▶来場の目的 							
								

- 定義
 - ・公衆の教育を主目的
 - ・人類の進歩の成果と未来の展望を示す

- 種類
 - 登録博覧会: 6か月以内、5年間隔(00年05年)
 - 認定博覧会: 3か月以内、会場面積25ha以内、登録博覧会の間に1回開催

- 登録と認定
 - ・締結国政府が申請
 - ・BIE総会での投票で決定

- 参加
 - ・参加国はパビリオンを出展し、政府代表を派遣

- 1994年決議
 - 特性
 - ・人類の知識の向上と相互理解
 - ・国際協力への貢献
 - 実施方針
 - ・人類の進歩の成果と未来への展望を示す
 - ・専門家間の交流と組織化、国際機関との連携
 - ・諸民族の文化的アイデンティティに対する理解
 - 要件
 - ・地球の自然環境の尊重
 - テーマ
 - ・現代社会の課題を浮き彫りにする今日的なテーマ

- ① 名称、テーマ、開催日程
- ② 開催理由と効果
- ③ 政治、経済、社会からの理解と支援
- ④ 博覧会を魅力的にするテーマの展開方法
- ⑤ 関係者と参加者の出展計画へのテーマの反映方法(サブテーマなど)
- ⑥ 参加国への支援事業
- ⑦ 広報計画と活動状況
- ⑧ 会場の特徴と交通輸送計画
- ⑨ 会場計画
- ⑩ 関連する整備事業と跡地利用計画
- ⑪ 総入場者数
- ⑫ スタッフの宿泊計画
- ⑬ 事業予算と調達計画
- ⑭ 参加費用の参考指標

「人類社会の課題解決の場」



- 公式参加国のメッセージ、表現において多様性が乏しくなり

提案の独創性と具体性が低くなる

- 途上国は提案することが少なく、先進国との差が大きくなる

1970年日本万国博覧会(大阪): 81カ国・機関

2000年ハノーバー万国博覧会 : 191カ国・機関

- テーマ館を中心に「課題の解説」になる傾向があり、

暗い印象となりやすい

＜現代～近未来社会の生活空間＞

- 高度情報社会がさらに進展し、新しい情報が瞬時に共有され日常化
- 新しいプレジャー空間やエンターテイメントが、瞬時に日常化



- 世界の多様なセクターが、一つの時と場所に会し多様な提案を持ち寄る
(国・国際機関、企業・団体、NPO・市民)
- それらをフラットに一覧、一望することができる
- 人・物・情報に出会う「リアル体験」を通じて理解し、記憶する
- 開催国の10%程度の国民が来場し、共通の体験をする